

## 3887 地球のかおり：「家路」(産経新聞)・心模様

ニュージーランド、南島、南端での出会い。時は夕刻。  
毎日繰り返される光景なのだろう。  
歩みが実に面白い。今日は少しお疲れの様子。  
どんな1日だったのだろう。

早く家に帰りたい。帰りたくない。  
動物は、そんなことは考えないのだろうか。  
皆さん、まるまる肥えている。食肉にされる様子はない。  
毛を刈り取られる時期も近いようだ。

落ち着いた、ゆったりした歩み。  
急ぐわけでもない。  
ふと、何を考えながら、家路につくのだろうか。  
ニュージーランドでは、羊はよく見かける。  
珍しくもない。しかし、この光景、  
何か、物語があるように感じた。

私も急ぐ旅ではない。  
この光景に、心ひかれたのは何故だろう。  
田園のかおりがする。  
私の家路、宿は、まだ決めていない。  
しかし、何か気になる。  
羊たちの家が、この坂の向こうにあるのだろうか。  
遊び心で少し追跡、ついて行く気になった。

光もだんだん柔らかくなってくる。

登り坂にさしかかると、光のあたり方が微妙に違ってきた。

羊の背に夕陽があたり、羊が輝きだした。

脇役でない。主役。

そんな印象を強く受けた。

東山魁夷画伯が『風景との対話』の中で、

絵になる場所を探すという気持ちを捨てて、

ただ無心に眺めていると、

相手の自然の方から、私を描いてくれと囁きかけているように感じる風景に出会う

その何でもない

一情景が、私の心をとらえ、私の足を止めさせ、

私のスケッチブックを開かせる。

この一見、単純な出会いは、偶然なのだろうか、

それとも、機縁の糸に、繋がっているからだろうか、と。

くらくらく  
久楽流でもある。

先入観や既成概念を持たない旅。

無や空という難しいことはわからないが、

自然の中、孤独な自己を置くことにより、解放され、

生き生きして来るのがわかる。

寂しさなど微塵もない。

生きているという実感を味わう瞬間。

瞬きとの遭遇。未知との遭遇。

頭や理屈ではない。体感と感性の世界。

その時、この理屈はない。

たかがワンショット。

この瞬間の瞬き、主役、脇役、そして、光や構成が  
私の心を動かしたこともあるだろう。

夢絵のモチーフ？ それだけではないように思う。

久楽の内奥の世界、純粋な心象かも。

深層に、何かあるのかも知れない。説明がつかない。

厳しさや不便さ、試練を与えることで、

自分自身が生き生きしてくる。

心が解放される。

だから、何でもない光景に、目や心が奪われたのかも・・・

いやはや、凝り性というのか、

大人になりきっていない子供心というのか、

無心のひとり旅の面白さは、実にぜいたくと感謝している。

このような気ままな旅が、今後もつづけられるだろうか。

今までのように、2～3ヶ月、

行方不明になるのが難しい状況にある。

いつも、これが最後かと思いながら、今日に至っている。

旅も人生も、運の部分が多いようだ。

持てる力を出し切ったのも事実。

二枚腰、最後まであきらめない姿勢が、身を助ける事に。

この度も、ラッキー、スマイル オン ミー。

地球夢紀行・夢旅シリーズのワールドコレクション。

独り占めには出来ない。

発表の機会をいただけた事に感謝したい。

今も、ターゲットを少し変化させて、複数の目標に夢挑戦中。

まだまだ、人生はつづく。

懲りずに、今は、今に全力投球するのみ。やがて、**夢挑戦 30 周年**。

20 周年には下記の冊子にまとめて送付させていただいたが、時流や状況が変化。

現実、脚下照顧。大切にしたい**優先順位**があるので、そちらを優先。

**2019 年も後半が始まる**。心身健康最優先。今を大切に、着々と、**久楽流**には**前進**している。

ホームページ発信も、出来ることしか出来ないが、**継続は力**。

夢旅も、ピンポイントの補充取材を実践中。**集大成**、マイペースで頑張りたい。

下記は、ニュージーランド・南島

